

第4回 武士政権の登場

§1 院政の開始

11世紀中ごろに即位した後三条天皇は、天皇中心の政治を取り戻すために、不法な荘園を整理して税収の安定をめざした。そのため、荘園を経済的な基盤とした藤原氏は大きな打撃を受けた。つづく白河天皇も自ら政治をおこない、幼少の天皇に位を譲り上皇(院)となって天皇を後見しながら政治の実権を握った。政治の実権は摂政・関白を独占した藤原氏から院へ移った。これを院政と言う。

この院政の時代に、各地の荘園をめぐる争いから大寺院の僧兵が朝廷へ押しかけるようになった。僧兵らによる要求を防ぎ、上皇の警護をおこなう必要から、源氏や平氏などの武士団が活用されるようになり、それによって武士が中央政治で力をもつようになった。

§2 平氏政権

武士が中央政治で力を伸ばしたころ、皇室や藤原摂関家の内部対立が原因で1156年に保元の乱が起こった。この乱には源氏・平氏が動員され、貴族社会の内部対立が武士の軍事力を使って解決されることになった。保元の乱後の恩賞をめぐる1159年には平治の乱が起こり、源氏の棟梁を倒した平清盛が武家の棟梁として中央政治で力を持つようになった。

平清盛は武士としてはじめて太政大臣となり政治の実権を握ったが、次第に上皇や貴族の反発が高まった。そして清盛の死後、平氏の支配に反発した源氏や諸国の武士の反乱によって1185年平氏は滅ぼされた。

§3 鎌倉幕府

平氏を滅ぼした源氏の棟梁源頼朝は鎌倉を本拠地として支配を拡大し、1192年に征夷大將軍に任命され、初の本格的な武家政権である鎌倉幕府が成立した。鎌倉幕府の役所としては中央に侍所・問注所・政所などが置かれ、地方には国ごとに守護を、荘園・公領ごとに地頭を設置した。鎌倉幕府の将軍と主従関係を結んだ武士を御家人と呼ぶ。将軍は御家人の領地を保護して新しい領地を与え、それに対して御家人は将軍に忠誠を誓うといった御恩と奉公の関係が結ばれた。

第4回 武士政権の登場

§1 院政の開始

11世紀中ごろに即位した後三条天皇は、天皇中心の政治を取り戻すために、不法な荘園を整理して税収の安定をめざした。そのため、荘園を経済的な基盤とした藤原氏は大きな打撃を受けた。つづく白河天皇も自ら政治をおこない、幼少の天皇に位を譲り上皇(院)となつて天皇を後見しながら政治の実権を握った。政治の実権は摂政・関白を独占した藤原氏から院へ移った。これを院政と言う。

この院政の時代に、各地の荘園をめぐる争いから大寺院の僧兵が朝廷へ押しかけるようになった。僧兵らによる要求を防ぎ、上皇の警護をおこなう必要から、源氏や平氏などの武士団が活用されるようになり、それによって武士が中央政治で力をもつようになった。

§2 平氏政権

武士が中央政治で力を伸ばしたころ、皇室や藤原摂関家の内部対立が原因で1156年に保元の乱が起こった。この乱には源氏・平氏が動員され、貴族社会の内部対立が武士の軍事力を使って解決されることになった。保元の乱後の恩賞をめぐる1159年には平治の乱が起こり、源氏の棟梁を倒した平清盛が武家の棟梁として中央政治で力を持つようになった。

平清盛は武士としてはじめて太政大臣となり政治の実権を握ったが、次第に上皇や貴族の反発が高まった。そして清盛の死後、平氏の支配に反発した源氏や諸国の武士の反乱によって1185年に平氏は滅ばされた。

§3 鎌倉幕府

平氏を滅ばした源氏の棟梁源頼朝は鎌倉を本拠地として支配を拡大し、1192年に征夷大將軍に任命され、初の本格的な武家政権である鎌倉幕府が成立した。鎌倉幕府の役所としては中央に侍所・問注所・政所などが置かれ、地方には国ごとに守護を、荘園・公領ごとに地頭を設置した。鎌倉幕府の將軍と主従関係を結んだ武士を御家人と呼ぶ。將軍は御家人の領地を保護して新しい領地を与え、それに対して御家人は將軍に忠誠を誓うといった御恩と奉公の関係が結ばれた。

Part 4: The Emergence of the Samurai Government

§1 Beginning of the Imperial Rule

Emperor Go-Sanjo, who ascended to the throne in the mid-11th century, aimed to stabilize tax revenues by liquidating illegal manors in order to restore emperor-centered government. The Fujiwara clan, which had based its economy on manors, suffered a major blow. Emperor Shirakawa also took over political power, handing over the throne to the young emperor and becoming the supreme emperor (上皇”Jō-kō”／院”In”). Political power shifted from the Fujiwara clan, which had monopolized the regent(Sessyo) and Kanpaku, to the In. This is called the In government (院政”Insei”).

During the period of the Insei regime, disputes over manors in various regions led to the invasion of the Imperial Court by the priests and soldiers of the great temples. The need to protect the emperor and to prevent the demands of the priests led to the use of warrior clans such as the Minamoto and Taira clans, which in turn led to the samurai's rise to power in central politics.

§2 The Taira administration

While the warriors were gaining power in central politics, internal conflicts between the imperial family and the Fujiwara regent family led to the Hogen Rebellion (保元の乱 “Hogen no Ran”) of 1156. The Minamoto and Taira clans were mobilized for this rebellion, and the internal conflicts of aristocratic society were resolved through the military power of the samurai. In 1159, the Heiji Rebellion (平治の乱 “Heiji no Ran”) took place over a bounty after the

Hogen Rebellion, and Taira no Kiyomori (平清盛), who had defeated the leader of the Minamoto clan, came to power in central politics as the leader of the warrior class.

Taira no Kiyomori became the first samurai to hold real political power as Grand Minister of State, but he was gradually met with opposition from the emperor and the nobility. After Kiyomori's death, the rebellion of the Minamoto clan and warriors from various countries against the Taira clan's rule led to the downfall of the Taira clan in 1185.

§3 The Kamakura Shogunate

Minamoto no Yoritomo (源頼朝), the leader of the Minamoto clan who destroyed the Taira clan, expanded his rule with Kamakura as his base, and in 1192, he was appointed as the Sei Taishogun (征夷大將軍 General conquering barbarians), establishing the Kamakura shogunate(鎌倉幕府 “Kamakura Bakufu”), the first full-fledged warrior government in Japan. The Kamakura Shogunate established the “Samurai-dokoro”(侍所) Office, the “Monchujho”(問注所)Office, and the “Mandokoro”(政所) Office in the center of Kamakura, while in the provinces, a guardian(守護 “Syugo”) was appointed for each province and a headman(地頭 “Jito”) was appointed for each manor and fief. The samurai who were subordinates of the Shoguns of the Kamakura shogunate were called “Gokenin 御家人”. The Shogun protected the lands of the Gokenin and gave them new fiefs, while the Gokenin pledged their loyalty to the Shogun, thus establishing a relationship of gratitude and devotion (御恩と奉公 “Goon to Hoko”).

第4回 武士政权的出现

§ 1

于11世纪中叶即位的是后三条天皇，旨在通过整顿非法庄园来稳定税收，进而恢复以天皇为中心的政治体制。为此，以庄园为经济基础的藤原氏受到严重打击。继任的白河天皇也亲自主持政治，并让位给年幼的天皇，自己则成为上皇（或尊称为“院”），在辅佐天皇的同时掌握政治实权。自此政治实权从垄断了摄政和关白的藤原氏转移到了院厅（专有名词）。这就是所谓的“院政”。

在院政时代，各地的庄园纷争导致了大寺院的僧兵涌入朝廷。为防止僧兵们提出要求，以及需要为太上天皇提供安全保卫，为此起用了源氏和平氏等武士团体，结果使武士们在中央政治中拥有了权力。

§ 2

由于武士在中央政治中的权力得到延伸，皇室和藤原摄关家之间的内部冲突，导致1156年爆发了保元之乱。在这场叛乱中，源氏和平氏被动员起来，通过武士的军事力量贵族社会的内部冲突得以解决。保元之乱之后，围绕赏赐的问题，于1159年爆发了平治之乱，推翻源氏首领的平清盛，作为武士家族的领袖在中央政治中掌权。

平清盛是第一个成为太政大臣并掌握政治实权的武士，但他也逐渐遭到了上皇和贵族越来越多的反对。清盛死后，由于反对平氏统治的源氏和其他各国武士的叛乱，平氏统治于1185年灭亡。

§ 3

消灭平氏的源氏首领源赖朝以镰仓为根据地扩大了自己的统治，并于1192年被任命为征夷大将军，建立了第一个正式的武士政权——镰仓幕府。作为镰仓幕府的政府机关，在中央设立了侍所、问注所和政所，地方上则在各领国设立守护，各庄园和公领地设立地头。与镰仓幕府将军结成主仆关系的武士则被称为御家人。幕府将军保护御家人的领地，并给予他们新领地，而御家人则通过宣誓效忠于幕府将军，形成一种御恩和奉公关系。